



発表項目 (行事名)	内閣府「課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」への採択について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>内閣府が公募を行った衛星データを活用した実証を通じて、先進的な成功事例の創出を図るプロジェクトについて、北海道衛星データ利用ビジネス創出協議会(事務局:北海道)のプロジェクトチームが検討を進めていた「衛星データを活用した農作物の作付面積等識別サービスの実証」が採択されました。</p> <p>1 公募概要</p> <p>(1) 対象プロジェクト: 新事業・新サービスの創出や既存産業の付加価値向上、生産性向上、省力化又は効率化、地球規模課題の解決や安全・安心で豊かな社会の実現等に貢献する先進的な衛星データ利用モデルの実証プロジェクト</p> <p>(2) 事業期間: 委託契約締結後(8月以降)～2020年3月27日</p> <p>(3) 委託金額: 1件あたり1,000万円程度</p> <p>2 提案概要</p> <p>(1) プロジェクト名 衛星データを活用した農作物の作付面積等識別サービスの実証</p> <p>(2) 概要 農作物の品質向上や収量増に向けた適切な営農指導等のためには、圃場情報(作付の面積や区画、品種)の正確な把握が重要であるが、現在は、農協や自治体等の職員の調査・確認という負担の大きな手法により行っているため、これを、衛星データやAI等を活用することで、安価かつ容易に圃場情報が収集できることを実証する。これにより、効果的かつ効率的な営農指導を通じた収益向上につながり、競争力を有する農業の実現が期待できる。</p> <p>(3) 実施主体 スペースアグリ(株)(帯広市)、オホーツク農業協同組合連合会、十勝農業協同組合連合会、ユニオンデータシステム(株)(札幌市)及び宇宙技術開発(株)(東京都)の共同チーム</p> <p>3 今後の予定 ・北海道衛星データ利用ビジネス創出協議会の取組として、実証の実施や事業化に協力していくとともに、実証成果の他地域・他分野への応用可能性について検討していく。</p>		
参考	<p>・全国で20件の応募があり、本道からの提案を含む7件が採択。(7/24公表)</p> <p>・道内からの提案は、昨年度も「衛星を利用した定置網漁業向け情報サービスの実証」が採択されている。</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	・衛星データの活用が道内で進むように、積極的な周知をお願いします。		
他のクラブとの関係			
担当 (連絡先)	<p>経済部産業振興局科学技術振興室 (担当者:篠原、渋谷)</p> <p>TEL ダイヤルイン 011-204-5127</p> <p>内線 26-827</p>		

衛星データを活用した農作物の作付面積等識別サービスの実証

実証プロジェクト分野 (あてはまるものに○)

農林水産業、自動運転、環境、防災、インフラ維持管理、交通、物流、金融・保険、スポーツ、国土強靱化・その他()

衛星データ利用者名

オホーツク農業協同組合連合会・十勝農業協同組合連合会

サービス提供者名

スペースアグリ株式会社・宇宙技術開発株式会社・ユニオンデータシステム株式会社

プロジェクト概要

農作物の品質向上や収量増に向けた営農指導等を適切に実施していくためには、圃場情報（作付の面積や区画、品種）が重要となる。現在は、農協や自治体等の職員の調査・確認という負担の大きな手法により行っているため、これを、衛星データやAI等を活用することで、安価かつ容易に圃場情報が把握できることを実証する。これにより、効果的かつ効率的な営農指導を通じて収益向上につなげ、競争力を有する農業の実現に貢献する。

プロジェクト詳細

1. 現状・課題

- ※ 同じ作物を連続栽培すると土壌バランスが崩れ、病虫害により収量や品質が低下(連作障害)
- ⇒ 栽培品種を周期的に替える輪作で対応
- ⇒ 圃場情報(作付面積や品種等)の管理が重要

圃場情報が適切に収集・管理・活用されていない

✓ 農協等職員が、作付の面積や区画、品種を農家に聞き取りした上で、現地を確認

↓
多大な時間と労力を要する
ある農協管内では、1ヶ月弱で延べ140人を動員

✓ 古い区画データのまま、更新等されずに使用

↓
適切な営農指導ができない
連作障害により澁原ばれいしよが20年で20%の収量減となった地域も

2. 実証 衛星データを活用した圃場情報の収集・管理により、農業の収益力強化

① 作付面積・区画情報の把握

衛星データ、ドローンデータ、GPSロガー、トラクター走行履歴、農協の区画データ等を組み合わせ、AIを活用して、圃場区画を特定

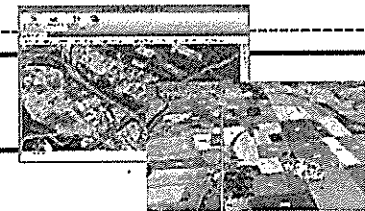


② 作付品種情報の把握

高頻度衛星データを品種ごとの成長曲線データと組み合わせ、AIを活用して、作付品種情報を予測

③ 圃場情報の基盤データ化

上記結果をわかりやすい表示とし、地域や時期ごと圃場情報（作付品種や面積、区画）として整理・蓄積するとともに、他のビッグデータ（WAGRI等）と連携



実証を踏まえたサービスの提供

3. 成果

衛星データの活用により、
①どの位置に、②どのくらいの面積で、③どの作物が植えられているかが推定可能

- 人手に頼っていた圃場情報の確認作業の時間を大幅に短縮
- 品種情報により、連作障害防止等に向けた営農指導が可能
- 台風等、災害発生時の農作物の被害状況の把握を効率化
- 作付面積と生育情報により、高い精度の収穫量予測が可能